

第 1 回

市民活動サポートセンター  
事業運営協議会

平成16年9月30日(木)

札幌エルプラザ 2階 会議室1

札幌市市民活動促進担当課

## 1. 開 会

事務局 それでは、まだ委員の方々がそろっておりませんが、過半数を超えて成立しておりますので、これから第2期札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会の第1回会議を開催させていただきたいと思っております。

## 2. 事務局から

事務局 本日の資料の確認をさせていただきたいと思っております。まず、皆さんのお手元に、次第、委員名簿、「札幌市の市民活動促進の取組」と書かれましたパワーポイントの印刷物が一式、それから、「～概況～」と書かれましたA3判のものが一式、サポートセンターの条例、施行規則、管理運営要領、協議会の要綱、市民活動促進に関する指針があるかと思っております。それから、最後の「サポートセンターだより」は、今まで出させていただいたものを四号置かせていただいております。

以上で資料確認を終ります。

事務局 それでは、これから協議に入りたいと思っておりますが、その前に、私から何点か説明と確認をさせていただきたいと思っております。

まず、市民活動サポートセンター事業運営協議会の主旨、役割についてでございますが、お手元にサポートセンターの事業運営協議会要綱をお配りしておりますけれども、サポートセンターの事業運営等に市民の専門的かつ幅広い意見を反映させることを目的として設置しております。

協議事項につきましては、センターの事業運営に関する事項、施設利用に関する事項、その他市が協議を依頼する事項を協議事項としております。

それから、協議に当たっての留意事項としましては、皆様にお配りしております平成13年7月に策定いたしました市民活動促進に関する指針、それから（仮称）市民活動サポートセンター検討会議報告書というものを14年3月に出しておりますが、それらの指針、報告書を踏まえながら、センター利用者を初めとした市民の幅広い意向を反映させるように努めるという役割を担っております。

ご承知のとおり、樽見先生にコーディネーターに就任していただきまして、そのほか委員さん9名、計10名から成る協議会ということで構成されまして、2年の任期となっております。

要綱の中にもございますとおり、今回、出席者が過半数を超えておりますので、これで会議が成立しております。

私の方からもう一つ確認事項がございます。

実は、札幌市のもろもろの審議会、協議会につきましては、情報公開の趣旨にのっとりまして会議を公開しております。この1回目も広報しておりますし、今後も継続して公開ということで対応させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、これから実際の協議の方に入っていきたいと思っております。

これからの進行は、樽見コーディネーターにお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

### 3. 協 議

樽見コーディネーター 皆さん、こんばんは。

皆さんお会いするのは2度目ですから形式張ったことは省きたいと思いますが、後ほど、簡単に自己紹介をしていただきたいと思います。

その前に、確認しておかなければいけないことがあります。

先ほど事務局の言葉にもあったように、この会議は当然のように公開を原則としていますが、今日もいらしていただいていますけれども、傍聴の方を歓迎するというだけでなく、議事録を率先して公開したいと思います。

その議事録の公開について、事務局の方で案があれば、皆さんにお示ししたいと思います。

事務局 議事録につきましては、大きく分けまして、会議の大まかな内容を報告する概要録と、会議で皆さんが発言した一言一句を整理した逐語録の二つがございます。

まず、概要録につきましては、第1期の事業運営協議会の当初から、前回の委員さんの合意のもとに公開とさせていただいております。また、逐語録、一般的に議事録と申します分につきましても、皆さんの議論が深まる中で、全11回のうち第10回目から公開しております。そういう意味で、今後も概要録と逐語録ともに公開の方向で対応させていただければと考えております。

実際の公開の方法につきましては、市民活動サポートセンターのホームページがございますので、そちらの方にデータを添付しまして、いつでもご覧になっていただけるような形を考えております。

当然のことながら、概要録につきましては、会議が終わった後にできるだけ早く公開し、逐語録につきましても、その後、皆様の合意をいただきながら公開したいと考えております。

樽見コーディネーター 今の事務局の案について、ご質問やご意見があればお出しいただきたいと思います。

私から一つ質問があります。

私は話がだらだらと長くて、後で聞いてみると、「,」ばかりで「。」がないのです。そういうものを多少修正する機会はあるのでしょうか。

事務局 実は、私も、結構あがってしまうことがあります。ですから、会議録につきましては、後ほどword等で文章化した後に、ひょっとしたら思い違い等もあるかもしれませんが、内容について皆様に確認していただきまして、文章が長いようでありましたら、途中で切っていただくような形の整理も可能ですし、基本的に全体の中身が変わらない範囲であれば、それぞれの発言を責任持って公表するという意味では、その部分につい

てはよろしいのかなと考えております。

樽見コーディネーター 他にご質問、ご意見はありませんか。

瀧見委員 何日くらいに公開するとか、そのようなルールはあるのですか。

事務局 そこまでのとり決めはしておりません。

技術的な問題として、テープで起こしたものを見ていただいてということになると、どうしても10日から2週間はかかってしまうのかなと思います。ただ、その前段で、概要録はもう少し速やかにということは可能かと思えます。

樽見コーディネーター 今の事務局案にご異論がなければ、それでいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

樽見コーディネーター それでは、議事録の公開についての原則は確認されたということにしたいと思えます。

それから、早速、次回以降の話をするのは何かと思えますけれども、今後の進め方についても、大まかな事務局案をお示しいただきたいと思えます。

事務局 今日が第1回目なのですが、今年度中にあと3回の協議会を予定しております。第2回目は10月、第3回目は11月、第4回目は大体1月から2月くらいの予定で開催したいと考えております。

それぞれの協議会でいろいろなことをご協議いただくのですが、その中でも必ずご協議をいただきたい項目としましては、2回目が来年度の研修・学習事業について、3回目がブース使用の考え方について、4回目が来年度の事業についてというふうに予定をしております。

ただ、この中身については、今後、皆様のご意見などをいただきながら、今後、変わっていく可能性もございます。

以上です。

樽見コーディネーター ありがとうございました。

ご質問等がありましたら、出していただきたいと思えます。

これは私の個人的なお願いですが、こういう会議を開くと、とにかく、協議する是々非々のネタが多くて、それを終わらせるのに終始してしまって、せっかくのこういう会議が機能しないということが結構あるのです。ですから、先ほどご説明があったくらいコンパクトにメインのテーマが毎回あるのでしたら構わないのですが、あまり細かい議事を事前に決め込んでいただきたくないなという思いがちょっとありますので、それに気をつけていただければと思っています。もちろん、この協議会の役割を疎かにするわけではないですが、せっかくこのようにいろいろな方面の方がいらしていただいているので、フリーハンドでしゃべることができる時間を十分とれるようご配慮いただけたらなと思えます。

加納委員 1月か2月に予定している4回目で、「来年度の事業について」というテー

マ設定があります。この段階だと、予算編成がほぼ終わっていて、議会承認を得る段階だと思いますけれども、来年度の事業をここで議論する前提がどのくらいのレベルのものなのか。要は、予算の中に事業計画がある程度入りますけれども、それに対する議論なのか、そうではなくて、どんぶりだけあって、中身については運営協議会の中でこういう趣旨のもとに細かい事業を立案してくださいということなのか、そのあたりはどういうふうにお考えですか。

事務局 現実には、これから予算編成作業に入っていきますけれども、事業部局からの要求は、10月いっぱいくらいに仮のまとめをしまして、財政に提出をします。そして、12月に財政の査定がありまして、年明け早々に市長査定をした上で予算として固めるというのが基本的なスケジュールになるかと思います。

ですから、今の段階で、細かいところまで予算として固めて要求するという形は現実には不可能ですので、一たん予算要求をするに足る枠組みを我々の方で考えさせていただいて、それは、この次のときに基本的な枠組みとしてという形でお諮りさせていただくことができると思います。

今、加納委員がおっしゃられた、実際に実行計画としてどうやるのかという部分は、その予算査定をくぐった上で、予算案として幾らかの額が確保できたのか、それではこの金額であればこういう事業をできるとか、この枠組みの中でもう少しこんな詰めをしていけばより効果的な展開ができるとか、そういうところは1月以降の会議の中でご議論いただけるのではないかと思います。

古起委員 そうすると、10月くらいには、来年度事業の骨組みとして考えているようなものは提示していただけるのですか。

事務局 今、まだ具体的に新しいメニューがあるという状況ではありません。ご承知かと思いますが、新まちづくり事業ということで、従前の5年計画にかわるものがこの9月22日に公表されていますが、今は、全く新しい視点で新しい財源を充てた事業展開ということが非常に厳しい状況になっていますので、来年度予算といたしましても、基本的には今年度の事業をある程度踏襲するような枠組みで考えざるを得ないのではないかと思います。

ただ、同じ事業を同じような形でやるということではなくて、先ほども言いましたように、その予算枠でより効果的な事業展開のアイデアはあると思いますので、そういったことはこの場でいろいろご提案いただければと思います。

樽見コーディネーター これから先の議論はちょっと中に入り込んだ議論になってしまうと思いますので、とりあえず、そんなところでよろしいでしょうか。またお二人のご意見をお伺いする機会があると思います。

今日の主たる目的は、そもそも私も含めて、委員のうち2名を抜かした全員が新規にこの任に当たるわけです。したがって、このサポートセンターはどのような成り立ちなのか、どういう役割を持っているのか、そして我々協議会委員に何が求められているのかという

ことが全くわからない状況でここに集まっておりますので、センターでどういう事業をやっているのかということ事務局の方からご説明いただこうと思っております。

しかし、その前に、まだ皆さん1回しか顔合わせをしていないので、そもそも我々は誰なのかということで、順番に自己紹介をしていただきたいと思います。

まず、こんな程度でいいということで聞いていただければと思いますが、私の方から自己紹介をさせていただきます。

改めまして、北海学園大学法学部の教員をやっています樽見です。どうぞよろしくお願い致します。

あらかじめ割り当てられた役割は、コーディネーターということだそうです。コーディネーターというのは、委員長ではないと事務局から聞いていまして、ちょっとほっとしております。コーディネーターは委員長ではないので、皆さんの代表ではなく、たまたま集まった委員のご議論をつつがなくと言うと語弊がありますが、みんながいろいろな案を出し合いながらも、このセンターを良くする方向に向けて進めていくのに若干の力を使えということなのだろうと思います。皆さんから見れば、ちょっと適役ではないのではないかとと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、努力してその任に当たるつもりです。

逆に言うと、委員長ではありませんから、皆さんと同じように言いたい放題言いたいと思っておりますので、あいつは自分の役割を認識していないなと思われぬようお願いいたします。

私は札幌に来てまだ6年目なので札幌のこと自体もよくわからないのですけれども、家内と子供が2人いまして、真駒内で楽しく生活しています。そういう生活も含めて、札幌のことをもっと知るいい機会だと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

古起委員 バリアフリーデザイン協議会の古起と申します。よろしくお願い致します。活動の中身は、安心して快適に暮らせる北海道にしようということで、まちづくり、住宅、行政の仕組みの応援、あるいは、団体と団体の間をつないだり、団体さんの事業の実現のお手伝いをさせていただいたり、多岐にわたって動かさせていただいております。

今は141人で活動させていただいておりますが、あまりにもやっている内容が多くて、何をやっている団体かわからないというのが一般的な見方ですけれども、エルプラザの中のサポートセンターに対する期待は非常に大きいので、勇んで参加をさせていただいております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

奥木委員 奥木と申します。

今は主婦をしております、4歳と0歳の子育て中で、4年前まではまちづくりのワークショップなどを企画するところで働いていました。

学生のころにも、子供の目線から見たまちづくりということがテーマでしたので、手稲区の方で「こどもまちかど解決隊」という活動を学生のみならず一緒にしておりました。

ここ何年も市民活動から離れていますので、皆さんと意見を交わしながら、いろいろ勉

強をしたり、刺激を受けたりしていきたいと思います。

よろしくをお願いします。

瀧谷委員 瀧谷和隆です。

NPO法人エーピーアイ・ジャパンの代表をしております。

本業は税理士をしております。なぜ税理士がNPOなのかとよく聞かれるのですが、もともと青年海外協力隊に参加していきまして、そこに何か応募したいということで見えていたら、たまたま漁業協同組合の経理や運営の指導をするという経理の知識を生かせる職種がありまして、そこに応募をするためにもっと会計のことを勉強しなければいけないなと思いつつ、気がついたら税理士になれていました。その後、NPOやNGOに携わるにつれて、会計とかお金のことも大切であることを実感しながら、その分野で何かお手伝いをできればなという気持ちからつくった団体です。

そのほかに、今、NPO専門家ネットワークという全国の団体の事務局長も務めておりまして、全国で会議を支援する私のような同業者がネット上で意見交換をする事務局もやっています。

このエルプラザも利用させていただいております。私は、生まれも育ちも札幌ですが、海外などを転々として、数年前に札幌に戻ってきたのですけれども、気がついたらこのような立派な施設ができていました。このエルプラザを、よりよい施設にして、私どももよりよいサービスを受けていきたいと思っておりますので、そういう立場で発言をしていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

伊藤委員 北海道コミュニティ・レストラン研究会の代表をしております伊藤と申します。よろしくをお願いします。

私のしている活動ですが、コミュニティ・レストランというのは、食を核にした地域づくりということで、NPOの一つの企業モデルとして位置づけられております。私は福住に住んでいるのですが、自分の住んでいるところでその実践と、北海道内でコミュニティ・レストランのコンセプトを広げていきたいということで、普及とかサポートの活動をしております。

札幌市さんとのおつき合いは、市民活動促進に関する指針を出す前に、札幌市市民活動促進検討委員会というものが立ち上がりまして、私は、そのときに初めて公募委員をさせていただきました。そのときから、公募委員のあり方、市民参加、行政との協働、委員会のあり方と、いろいろ感じていることがありますので、私も市民活動サポートセンターの運営に関して何かプラスになるようなことができればいいなと思っています。

よろしくをお願いします。

加納委員 加納です。

私は、しゃべっているイントネーションでわかると思いますが、生まれも育ちも京都で、23歳まで京都にいまして、それから東京に4年ほどいて、北海道に来て早16年ということで、平成元年に北海道に来ました。

この資料ではNPO法人札幌チャレンジドと書いてありますが、これは、障がいのある方にパソコンとかインターネットを教えて、社会参加、就労支援をしているNPOですけども、私は専従職員ではありません。本業は、北海道電力の系列会社なのですが、通信関係の会社で営業の課長職レベルの仕事をしております。

市民活動は、札幌チャレンジドにかかわらず、ボラナビ倶楽部とか、新保さんと一緒にやっているひまわりの種の会とか、幾つかかかわってやっていますが、市民活動にかかわり出してちょうど5年くらいになります。それより前は、市民活動というのは全然違う人種の人がやるものだ、自分には全く関係ないというつもりで生きてきたのですが、ひょんなことからかかわるようになり、今では結構はまっているといえますか、おもしろくていろいろなことをやっております。

この運営協議会では、サポートセンターの事業運営協議会という位置づけではありますが、2年間という時間もありますので、ここを核にして、札幌でいろいろな形で市民活動が広がっていったり、いろいろなコミュニティができていけばいいな、そんなところで自分ならではのアイデアを出せればいいなと思って参加しました。

よろしくお願ひいたします。

新保委員 NPO法人ひまわりの種の会の代表をしております新保るみ子と申します。よろしくお願ひいたします。

ひまわりの種の会というのは、次世代の子供たちの環境や地球環境全体が今より悪くならないようにといえますか、住みよい環境であってほしいなということで立ち上げた会です。

具体的な活動としましては、自然エネルギーの普及啓発ということを中心に、環境教育などを織りまぜながら活動しております。今年度は、円山動物園の科学館の屋根に市民の太陽光発電所を立てようというプロジェクトをちょうど今行っているところです。市民の方から寄附を募って、その寄附でソーラーパネルを買って、それを屋根の上に立てるとい活動をしております。もしご興味がありましたら、お問い合わせいただければと思います。

そのほかに、エルプラザの市民活動サポートセンターの相談員を週に3回行っているのですけれども、こういった会議の機会がございますので、ぜひ皆様から、こういうことがあったらいいのではないですかという率直なご意見をいただいて、それをまた現場にフィードバックして生かしていきたいと考えております。

よろしくお願ひいたします。

長江委員 長江孝と申します。よろしくお願ひします。

この4月に札幌に戻ってきたのですが、その前までは福岡で大学時代と社会人の2年間を過ごしました。その間に、福岡県のレクリエーション協会さんとのつながりでインストラクターの資格を取りまして、そのレクリエーションを中心に市民活動に参加してきました。また、大学時代は、大学生協で学生委員会と理事という形で、学生生活を終えてから



市民活動の方に参画いたしました。

そして、札幌に戻ってきました、市民活動サポートセンター事業運営協議会に公募委員として参加させていただいたわけですが、福岡では市民一人一人が元気で活発でうきうきわくわくしながら生きている様子を見てきましたので、ぜひ札幌でも、地域それぞれでみんなが元気に、これをやりたいと考えたことが実現できるように、この協議会でお役に立てたらなと考えております。

また、現在は、札幌のパフォーマンスカーニバル「だい・どん・でん」というお祭りがありますけれども、そちらの企画・運営のスタッフに入っております。

これからの方向としましては、青少年の活動の方にもう少し力を入れていきたいと考えております。

よろしく申し上げます。

加藤委員 私は、東区で、さっぽろ村コミュニティ工房という、情報によるまちづくりの活動をしています。NPO法人になったのが2年ちょっと前なのですが、それ以前から、コミュニティ放送局というラジオで地域の情報を発信することに長くかかわってきた中で、何とか東区を盛り立てていきたいということで、今、そのような仕事をしております。

それ以外にも、NPO法人インフォメンターという活動もしております。こちらでは、東札幌の市民情報センターの運營業務や、そこで開催されるIT市民塾の企画などもやったりしております。

それから、北海道NPOサポートセンターの理事もやっております。

このように、何でも首を突っ込みたがる方なので、いろいろなことに興味を持って幅広くやっていきたいと思っております。その中で、市民活動では大変いろいろな方と知り合いになれまして、常に刺激を受けて自分でも非常に楽しいなと思っておりますので、今回ここで一緒できる皆さんとも、ずっと長くいろいろなことができいくいい出会いになったらいいなと思っております。

どうかよろしく願いいたします。

樽見コーディネーター 皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、さっき申しましたように、そもそも市が設置、運営するサポートセンターとはどういうものかということについて、事務局の方でパワーポイントを準備していただいているようなので、それを見ながら、まず説明を伺いたいと思います。

申し上げます。

事務局 それでは、ご説明に入りたいと思います。

「札幌市の市民活動促進の取組 ～市民自治が息づくまちづくりに向けて～」という標題になっております。

皆様、一堂に会していただきましたので、私どもの事業について簡単にご説明していきたいと思っております。

今日お話しするのは、札幌市の市民活動促進の取り組み全般と、市民活動サポートセン

ターについてです。

こちらは、平成11年に市政モニターで行いました市民活動への参加経験と今後の参加意向についての調査結果です。見ていただくとわかりますとおり、今参加している、かつて参加したことがあるという方が36%ですけれども、参加したいと考えている方はさらに多く、これから5年たっておりまして、参加経験がある方はさらに増えているかと思いますが、今後も、参加経験のある方、参加したいと思える方が増えるように、こちらの方でさまざまな取り組みをしていきたいと考えております。

それでは、市民活動の団体数はどれくらいかということですが、NPO法人の認証数だけでははかれないのですけれども、今年の7月31日現在のものです、道内664、そのうち札幌市分が322あります。そして私どものサポートセンターの登録数はただいま1,281となっております。

それでは、市民活動団体にはどんな分野があるのかということですが、皆さんご承知のとおり、保健、医療、福祉の分野と、文化、芸術、スポーツ、まちづくり、環境保全、社会教育が多くなっておりますが、そのほか本当にさまざまな分野の市民活動があります。

こちらは、私どもサポートセンターでとったアンケート結果ですけれども、どんなことに困っていますかということの中で、資金不足が断トツに多くとなっております。それから、担い手の量的な不足や活動の場所が足りないということが多くありました。

そして、行政に望む施策はという質問に対して、第1位は活動に対する資金の援助で、これが約半分近くあります。活動や情報交換の拠点となる場所の確保や整備も半分近くの方が望んでおります。

そして、活動に必要な備品や機材の提供、市民企業に対して活動の理解と参加を促すための広報や普及活動、市民が活動を実践できる場、機会の提供というものが3位以下となっております。

札幌市の動きとしましては、平成11年6月に、市民局に市民活動促進担当組織を設置いたしました。そして、こちらの前身である市民活動プラザを暫定施設として開設いたしました。市民活動促進検討委員会を設置、その後、13年7月には、今日皆様にお配りいたしました「市民活動促進に関する指針」を策定しております。

13年8月には、市民活動サポートセンター検討会議を設置いたしました。2年前の14年8月に、市民活動サポートセンター事業運営協議会を設置いたしました。

そして、2年たちまして、今回、委員の改選ということになったわけです。

平成15年7月に、こちらの前身となりました市民活動プラザを閉館いたしました。2カ月後の9月に市民活動サポートセンターがオープンいたしました。

ちょうど今月の9月で1周年になったわけですが、16年6月には、皆さんが資金で困っているという声を反映しまして、さっぼろ元気NPOサポートローンという皆さんが融資を受けやすくする制度を設けております。

平成13年7月に策定されました指針の中に、市民活動とはどういうものかということ

で、この五つを定義しております。

なぜ市民活動の促進が必要かということですが、背景には、市民のニーズの多様化、核家族化や高齢社会の進行、地方分権の進展、情報化の進展といったことがあります。

そして、期待される役割として、指針の中ではこの五つを挙げております。

21世紀のまちづくりの担い手、社会に必要なサービスを提供する新しい力、新たな地域コミュニティの構築、個人の力と可能性を引き出すこと、自己実現の場を提供するというものが挙げられております。

この指針の中には、基本方針として三つの柱があります。

促進体制の充実は、行政が変わるということです。市民活動への支援は、市民が力をつけ、そして市民活動との連携、協働は、相互の信頼を高めるという三つの柱によってこの指針の基本方針が決まっております。

現在、札幌市では、この市民活動促進に関する指針に基づいて全庁的に取り組みを進めております。

その詳細につきましては、この一番後についているA3版の方で詳しい取り組み状況を記載しておりますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

16年度も、まちづくりセンターの整備やNPOサポートローンのスタートなど、取り組みを進めている最中です。

続きまして、市民活動プラザについてですが、これは平成11年6月から15年7月まで中央区の北1西9に開設されていた施設です。

4年間で5万1,215の方がご利用いただきまして、登録者数は団体・個人合わせて1,178ありました。

平成15年9月にオープンしたサポートセンターは、今日皆さんがお越しいただいてご存じのとおり、エルプラザの2階にございます。市民の皆さんがまちづくりの活動や交流を図る拠点として設置されております。

このエルプラザの中には、サポートセンターのほかに、男女共同参画センター、消費者センター、環境プラザ、そしてサポートセンターの四つの公共施設が同居という形になっております。

センターの利用登録状況ですが、開設時は全部合わせて734、そして、現在、8月末で1,281の団体・個人の方が登録いただき、ご利用いただいております。

こちらは、センターの利用者数です。こちらのグラフでわかりますように、最近では、毎月4,000人前後の方にご利用いただいている状況にあります。

サポートセンターには四つの機能がありまして、一つ目は情報提供・相談機能、二つ目が交流活動支援機能、三つ目が研修・学習機能、四つ目が市民活動団体支援機能となっております。

まず、市民活動団体支援機能ですが、印刷作業室や会議スペース、団体用の事務ブースやロッカーなどを提供しております。明日10月1日から新たに3団体が入居し、事務プ

ース利用は17団体になりまして、すべてが埋まることになっております。

情報提供・相談機能としましては、ホームページ、それから利用者の皆さんがお持ちになったチラシ等の掲示、それから皆様のお手元にもお届けいたしましたサポートセンターだよりなど、活動に役立つ情報を発信しております。

それから、相談コーナーではさまざまな相談に対応しております。

続きまして、研修・学習機能です。

活動を行う上で必要なノウハウなどを学ぶ機会を提供しようということで、さまざまな方にお声かけをいたしまして、こういった講座などを催しております。

交流活動支援機能といたしましては、オープンしたときに大きなオープンイベントがございました。その後、ブースの交流会や、今年の9月にも1周年記念としてブースの方との交流会や市民の方との交流を図るための記念祭を行っております。

最後に、事業運営協議会について簡単にご説明いたします。

センターの事業運営等に市民の専門的かつ幅広い意見を反映させることを目的として、次の事項について協議を行っていただくこととなっております。一つ目が、センターの事業運営に関する事項、二つ目が施設の利用に関する事項、三つ目はその他市が協議を依頼する事項ということになっております。

パワーポイントの説明は以上でございます。

樽見コーディネーター それでは、続けて16年度の事業と今年度の講座案をご紹介します。ただきたいと思います。

事務局 一つ、補足で説明させていただきたいと思います。

「『市民活動促進に関する指針』」関連施策の平成16年取組状況」という資料がございます。

先ほども若干の説明がありましたが、市民活動の促進指針と申しますと、ここでいう(2)の市民活動への支援の個人・組織への支援と環境の整備というところがイメージとして強いと思います。

ただ、私どもの市民活動の促進に関する指針というのは、もちろん市民活動というのは大きな存在だと思っておりますが、反面、行政側の方もより意識を高めなければならないということがあります。まず、促進体制の充実の中では、全庁的・横断的な組織を組んで、全体的に市民活動の施策に対する意識を高めるということ。それから、サポートセンターを機能強化するということはもちろん大事ですが、上田市長が87のまちづくりセンターを設けました。札幌は、市域としても1,000平方キロメートルを超えるものですから、区のまちづくりセンターとの連携を今後進めていければということで書かせていただいております。

それから、ある意味で一番大きいと思っておりますが、市民活動団体に対する、あるいは自分たち自身が市民活動やまちづくりに対する意識を高めるといった職員の意識向上というものが三つ目の柱になっております。

それから、市民活動への支援につきましては、そこにあるとおりでございます。

最後に、行政と市民活動がばらばらに活動していくのではなく、お互いの意識を高める中で集大成として、一緒に連携・協働していくということが非常に大切なのかなと思います。

その結果として、市長がおっしゃっている市民自治が息づくまちづくりということで、市民自治を進めていくとか、市民情報センターや市民活動サポートセンターなどにおける連携・協働。あるいは、私どもの方や各部局で取り組み始めております企画提案型事業もそうでございますし、地域との連携によるまちづくり関連事業という点もでございます。

このサポートセンターが立ち上がったときの市長の考え方としては、市民と職員との学びの場という位置づけで考えていきたいということでございますので、まさしく、事業運営協議会において皆様にご意見をいただきながら、私どもも一緒に学んでいくという考えで対応してまいりたいと思っております。

以上でございます。

事務局 続きます、「～概況～」と書かれましたA3判の用紙に、先ほどご紹介いたしました四つのサポートセンターの機能の今までの経緯、16年度事業が書かれてございます。

一つ一つご説明申し上げたいところですが、皆さんの協議の時間がなくなってしまうと困りますので、今回は、一番最後の研修事業について取り急ぎご検討をいただきたいと思っております。

一番最後に15年度に行われた研修・学習機能が書かれておりますが、その1ページ前に、入門編、応用編、総合編ということで書かれているA4の大きさに書かれたものが、今年度実施予定のものです。これから研修・学習機能として講座を行っていくつもりでございますけれども、皆さんのご意見等をお伺いしながら話を進めていきたいと思っております。

今日ご検討いただきたいことは、どんな講座がいいのかということです。ただ、今日急に言われてもということであれば、その一番後にA4判の「講座プロジェクト案記入用紙」というものをつけさせていただいておりますので、こちらにご記入いただきまして、後ほどご連絡をいただいたり、こちらの方から皆さんにご意見をお伺いしたりしながら話を詰めていきたいと考えております。

樽見コーディネーター 今の流れですと、いきなり課題を与えられたような形ですが、ちょっと提案があります。

そもそもこの協議会とは何かというイメージが、皆さんはつかまれたのかもしれませんが、僕はまだ完全につかめていません。

平成14年8月からスタートしたものが2年間あって、この協議会に引き継がれたわけですが、先ほどパワーポイントで四つの役割があるというご説明がありました。その流れの中で、今日は具体的に研修・学習機能に関して何か案がないかという課題が提示されて

います。しかし、いきなりここには行かずに、この2年間、この協議会で何が行われてきて、積み残しの課題としては何があるのか。あるいは、今回ここに参加されている方々はどのような思いを持っているのかということについて、意見のすり合わせを行っていかねればいけないと思います。いきなりここに入ってしまうと、具体的過ぎてしまって、根本の問題を積み残してしまうことになりかねません。

私からの提案は、せっかくここに前回の委員もおやりになっている方がお二人いるので、ごく簡単に結構ですから、今までこの協議会でどのようなことが話し合われ、どのようなことが積み残しになっているのか、あるいは、ご自身はこの新たな会議にどのような思いで参加されているのかというお話を伺えればと思います。

ついでにと言うと何ですが、先ほどのパワーポイントにも写っていましたが、加納委員も実際に研修の講師として参加されておりますので、参加された感想も含めて、この協議会の委員はどのような役割を担っているのかというご自身の意見をおっしゃっていただきたいと思います。

加藤委員 私は、事業運営協議会と、その前の検討委員会の段階からここにいかかわっております。

オープン前には、主にここにどんな設備を置くのかということについて、時間が少ない中で意見を述べる場があったのかなと思っております。

実際にオープンする前後ということに関しては、先ほどパワーポイントの説明の中にあつた四つの機能ですね。市民活動団支援機能、情報提供・相談機能、研修・学習機能、交流活動支援機能ですが、毎回、それぞれの機能ごとにペーパーが用意されて、それをもとに検討を積み重ねてきました。

その中で、今日も課題になると思いますが、研修機能に関しては、第1期の委員がみんな非常に積極的といいますか、特に関心の高い部分であったこともありまして、実際に委員がコーディネーターを務めたり、研修のプランニングをやったりしました。果たしてそれが良かったかどうかということを検討する機会がなかなかなかったのですが、現実には、研修では加納委員にも講師になっていただきました。

ただ、参加者が少なかったのです。当時は、サポートセンターはオープンした直後で、知名度ゼロみたいなところがありまして、そんなことも課題だったかなと思っています。

それから、情報提供・相談機能に関しては、相談員である新保委員の方からお話があると思いますが、現場の意見を聞くことができたかなと思っております。

ただ、全体を通じて難しかったのは、実際に利用している人の本当の声やニーズを把握することが委員の手ではなかなかできませんでしたし、そのことに対する取り組みが少し足りなかったかなという気がしております。

それから、事務ブースに関しても、10月1日から新しい入居者もありますが、その選考もこの委員の一部が携わる形で進めてきまして、私はそちらの方にもかかわって来ました。

事務ブースに関しては、一応、選考基準はあるのですが、果たしてそれがこの目指すインキュベーションとか市民活動を育てていくということに合致しているかどうかということをお個人的には疑問を抱いております。

具体的に言いますと、今、事務ブースは日中はあまり人がいないのです。せっかく事務ブースがあって、机とか設備があっても、それぞれの団体の事情にもよりますけれども、毎日のようにそこを使って何か活動しているという団体が少ないのです。それは、それなりに何かの役割を果たしているのでしょうかけれども、例えば、そこに事務ブースに入居している団体同士の交流などもあまり活発でないということもありますので、そういうあたりを選考の仕方とか今後の運営の仕方ということで検討すべきではないかと思っております。

以上です。

樽見コーディネーター 加藤委員がおっしゃっていただいたセンターが抱えている問題については、皆さんもご意見があると思いますので、この後に言っていただきたいと思いますが、その前に、新保委員と加納委員から追加でインプットしていただきたいと思っております。

新保委員 去年の9月にここがオープンしたのですけれども、オープンするときに、市民団体からの自主的に声が上がって、オープニングイベントを市民団体でやりたいという意見があったときに、事務局の方が柔軟に対応して、何とか4施設が連携をとれるような体系づくりができたらいいということにかなりご協力していただいたかなというふうに感じております。

先ほど加藤委員の説明にもあったように、研修機能を自主的にプランニングしていったという部分でも、私の感じ方としては、柔軟に対応していただいたかなという印象を持っております。

課題として感じたことは、時間的な余裕がなくて、2年間のもろもろの行事などについて、最終的に取りまとめて今回のところに引き継ぐというところまでできなかったのではないかと感じております。

相談機能に関しては、以前に道立市民活動促進センターで相談員をやっておまして、そこで勉強させていただいたことなどをこちらの施設にも活用できたらなということがベースになっております。しかし、こちらの施設には新しいお客様が見えるということと、道立センターにいたときと今とでは時代も変わってきておりますので、時代の流れに即したような対応ができるようにということを考えながらやっているという状況です。

以上です。

樽見コーディネーター どうもありがとうございました。

さっき加納委員にお願いしたときに、僕は間違った言い方をしたかもしれませんが、加納委員が既にここにかかわっていらっしゃるのです、研修のことだけに限らず、ここにいらっしゃるに当たって心に秘めた思いみたいなものがあると思うのです。ですから、研修だ

けに限らず、今のお二人の話につけ加えておっしゃりたいことがありましたら、お願いしたいと思います。

加納委員 私は、15年度に1回と16年度に2回講師をやらせていただきました。その3回の講習は、本当に運営協議会の方がコーディネートをされてストーリーを作られた中の一つとして私にオファーが来まして、そのストーリーの中で私が合うと見ていただいて声をかけていただいたという位置づけです。ですから、全体の流れがどうであったかというあたりは私自身は把握していません。

やってみてどうだったかというところ、一つ気になったのは、参加者が少なかった一番の原因は、告知期間が非常に短かったというところにあつたのではないかと思います。僕ら商売の世界で言うと、マーケットリサーチをして、ターゲティングをして、ターゲットに合った営業活動とか広告活動をしていくわけですが、その辺の流れが何となくできていなくて、どちらかというところ、自分たちの中で考えてよかれと思うものをただやっていったという形なのかなという感じを持ちました。

ここのセンター全般についてというのは微妙なところで、一利用者として会議室や打ち合わせブースを使わせてもらったりというくらいで、そんなに意識をしたことはないのですが、研修事業というのはこの中では大きい事業になると思います。どういう人にどういう研修をするかということで、時間的余裕がなくて、ぐっと圧縮した中で告知期間が短くなったのでしょうけれども、その辺はもっとやられればいいのではないかと思います。このセンターを利用している中にターゲティングをするのか、広く一般市民の中にターゲティングをするのか、それは両方ありかもしれないし、どちらでもいいのですが、その辺のところをやる必要かあると思います。

それから、非常に難しいのは、市民活動をやりたいなと思いつている人は、我々が知らない市民の中にもきつといるわけです。だから、これは去年やったから今年はやらなくていいねという話には本当はならないはずなのです。本当に必要なものは毎年必要なはずなのです。その辺も含めて、この後、議論できればいいのかなと思っております。

樽見コーディネーター ありがとうございます。

今、研修についてすごくいいお話がありましたけれども、最初に詰めておかなければいけないのは、第2期目の協議会を新しく運営するに当たって、どこにポイントを置くべきなのかというところが、私自身、よく見えないのです。先ほど加納委員がおっしゃったように、私も研修というのは幾つかある大切な議題の大きな一つだという認識でいるのですが、限られた回数の中でどこにフォーカスしてこの協議会を機能させたらいいのかというあたりが少し漠然としているのです。そのあたりについて、ジェネラルなご意見があれば、ぜひこの機会におっしゃっていただきたいと思います。

古起委員 やはり、研修ありきの流れをすごく感じるのです。研修が目的になってはいけないということは皆さん感じていると思います。ですから、話の切り出し方として、最初に指針があるのであれば、この事業運営委員会なりサポートセンターの目的に沿って、



どういう機能が必要なのかというように、機能のところから再度議論をしたり、いいものがあれば残せばいいですし、その結果として研修・学習機能というものが出来れば、別段、何の問題もないと思いますが、今までの流れを見ると、機能ですばっと切られて、機能別の検討を余儀なくされてきたという感じがするのです。

その一つの弊害とは言いませんが、事務ブースなどは、利用する方のニーズとこちらの思いが完全にアンマッチです。皆さんは、ただ拠点が欲しいだけであって、あのブースで活動するわけではないわけです。それは、私の誤解もあるでしょうけれどもね。

ですから、もう一回、この協議会の目的から切り込んでいく必要があると思います。逆に、今までの経験の中で、よかったものはそこにどんどん持ち寄ってもらうということが必要ではないかと思います。

私にすれば、リンケージプラザでやっているものと、ここでやっているものと、ちえりあでやっているものと、何がどうなっているのかよくわかりません。ただ、参加者が分散して利用機会が増えましたということはわかりますけれども、共通しているわけではないので、わかりませんね。

樽見コーディネーター この協議会の抱えている一つの難しさというのは、実は、この建物はサポートセンターのためだけのものではなくて、四つある大きな団体のうちのひとつなのです。しかも、その中でメジャーかマイナーかと言われると、決してマイナーではないけれども、メジャーな団体ではなさそうだというニュアンスを感じます。

ですから、四つのうちの少なくとも4分の1か、4分の1以下くらいの感じのところを使っているのが市民活動サポートセンターであって、その協議会ということは、協議会で決めたことがすんなりと全体を見渡すような議論にはなかなかないという難しさもあるのかなと思います。

ですから、もしかしたら、この協議会をこれで終わらせないで、協議会から発信するような情報とか提案を四つの団体に広げていくような努力もしなければいけないと思います。

長江委員 私は4月に札幌に来たものですから、札幌のどういう施設でどういうことが行われているのかということにははっきり把握していません。ただ、せっかく同じような施設がいろいろありますし、組織も大体同じ方向を向いて活動していると思いますから、そこでうまく連携をとって活動できないのかなと感じました。

先ほど古起委員がおっしゃっていたように、運営協議会の目的から話を進めていくということは非常に魅力的だと思います。あとは、回数なり協議できる時間との闘いになってくると思います。

樽見コーディネーター 例えば、回数については、こういう正式な会議は少なくとも、その間に個人で連絡を取り合うこともできますので、そこで話し合われた結果をこの会議に必ずフィードバックすれば公開していることにもなります。ですから、いろいろな方法があると私は思います。

長江委員 回数に縛られずにやるのであれば、そういう方が意見も出やすいと思います。

加納委員 私は市の方から声をかけていただいた委員なのですが、最初にお声かけをいただいたときに、申しわけないくらい強く言ってしまったのですが、単にこの場の運営をどうするこうするという委員会であつたらあまり入りたくない、そんなものではおもしろくないと。それはそれでやるけれども、市民活動自体がどうやって広がっていくか、ここはその場の一つであつて、そういうことを議論したり提言したり市の政策に反映できるのであれば一生懸命やりたいと思っているのです。

ただ、いきなり大上段に振りかぶったことも言えないので、2年あるから徐々にそういうことをやっていけばいいなという腹積もりはありますが、そこにどこまで踏み込むかですね。時間軸とか方法論は別にして、最初みんなの認識の合意とかモチベーションみたいなところは結構重要だと思います。

この要綱だけを見ると、我々はとても受け身の存在なのです。協議会は次の協議をするということで、センターの事業運営ですから、センターというものに閉じているし、施設の利用に関する事項というのは、まさしく細かなルールです。3番目はもっとひどくて、その他市が協議を依頼する事項ですから、とりようによっては、別に私たちは考えなくていいと言われているのです。

それではつまらないというところかなと思います。

樽見コーディネーター すごくジレンマなのは、片や、この協議会は又エのような正体の知れない協議会でいいという思いがありますが、一方で、サポートセンターの運営協議会という名前を冠せられているのです。それはどういうことかということ、ここは公設公営のサポートセンターですから、お役人ではない第三者機関の目をしっかり光らせて、その運営を市民という視点から監視していくと言うと悪いけれども、定義し直していく必要があります、だから我々がここに在るわけです。

ということは、運営に密接にかかわって、運営を監視したり運営を協議するという面で機能していかなければいけないのです。一方で、市民活動とは何かということも協議するような場であるけれども、実際に館を運営するための第三者機関であるという役割も担わされているので、その辺で皆さんの思いをすり合わせて、6・4とか、5・5とか、その辺の具体的なすり合わせをしておかないで、いきなり研修に入っていってしまうと、そういう機会がなかったねということになってしまうと思うのです。

瀧谷委員 私は、利用者の代弁ではないですが、利用者の声を行政の人に伝える役目もあると思うのです。私たちの役割としては、根本的には利用者の満足度を上げることがあるので、先ほどのニーズではないですが、どれだけの満足度なのか、または問題があるのかということも最初に押さえておいて、2年後にそれが一定水準以上に上がって自分たちの役割が達成されたとか、自分たちが評価される基準が何かあってもいいかなと思います。

私としては、利用者が何を考え何を希望しているのかということが、どういう形かわからないけれども、私たちもわかって、それを行政の方に実現化してもらおうという役割を重

視して、最初からこれありきというようなことはどうなのかなと思います。

樽見コーディネーター 具体的に言うと、利用者というのは、ここにいらっしゃる方の多くは、実際にここを利用していたり、いずれ利用する団体の代表だったり参加者の方ですが、それ以外にもたくさんの方が利用者がいらっしゃるわけです。この運営協議会がそういう場を積極的に設けるべきなのではないでしょうか。

瀧谷委員 直接、自分たちに寄せてもらえる情報のツールとか、行政に行くのではなくて、自分たちが意見を聞けるような場とか、メールとか、いろいろあるわけですから、そういう形で聞いていかなければいけないと思います。

樽見コーディネーター 言葉が悪いですけども、いつも伝書バトのように、右から左に行き、左から右に行きということに終始してしまうだけではまずいのではないかなと思うのです。ここ独自の視点でここを良くしていこう、しかし、それをフィードバックして、市民の皆さん、こういう考えはどうですか、それをフィードバックして行って、行政の方はこれをやれますかというような、政策と言うほどオーバーなことではないですが、この館の方向性を協議していくような団体でもあるのかなという気がするのです。

古起委員 今のは非常に賛同するのですが、まず、この立地と、今は4団体入っているということを見ると、これは札幌市だけの話ではないのです。北海道のへそみたいなところがありますので、役割認識をもっと広げる必要があるだろうと思います。例えば、福岡の博多は、単に福岡のへそという発想ではありませんね。そのような部分は無視できないので、広域利用ということは考えざるを得ないのです。当然のことながら、利用者というのはだれだろうと考えていくと、単に札幌市民というくくりはできないのです。

一番わかりやすい例を挙げると、これは課題の投げかけになりますが、環境プラザというのは何なのだ、5時に勝手に閉まってしまって、私たちはこれから活動しなければいけないのに何も使えないではないか。消費センターは何なのだ。そういう声をすごくいっぱい聞いているのです。それは、何かうまく機能していないからだと思うのです。

市民活動サポートセンターには1,200くらいの団体が登録をされていますが、そこには、環境組もあれば、消費生活組もあれば、食関連もあれば、いろいろな方たちがいらっしゃいます。当然ながら、仕事をしていなくてやっている方もあれば、仕事をされていてやっている方もいます。大変な数ですね。

あまりよその例を言うてはいけませんが、道の施設は、活動したい時間に閉まっているのです。あれでは利用のしようがありません。

誰のためにという目的と手段がずれてきているのではないかなと思います。サポートセンターは4団体の一つではあるけれども、横の連携という部分でもう一步踏み込んでいかなければいけないと思います。

実際、私の知人に、初めてプラザを訪れてきて、つらい思いをして、すぐに帰ってしまった方が何人もいらっしゃるのです。単純に、そんなものはありませんとか、自由に使えるパソコンはありませんとか、そういうことで何人も帰っているのです。それはおかしい

のではないかと思います。

先ほど言われたように、ここに登録している方のためのものですか、これから利用しようとしている方も含めてですか、もっと広域の方々もですか、あるいは、事業者がもっと市民活動にかかわれるようになって活動の持続性がもっと高くなるのではないかと、そういうところの議論をもう少し詰めた上で入った方がいいと思います。

樽見コーディネーター さっきパワーポイントで説明していたものを聞いても、前の委員は、2年間の任期のうち、最初の1年間はここの立ち上げで、次の1年間はスタートアップですね。そして、僕らに期待されていることは、一度評価して、評価した後に次へつなげるものを出していくということなのだろうと思います。

伊藤委員 今、樽見さんが評価とおっしゃいましたが、なるほどなと思いました。

要するに、ここのセンターは、札幌市民が払っている税金で運営されているわけです。私は、タクスペイヤーとして、その税金が本当に正当に使われているのかということを見ていく立場にあると思うのです。私は、それも一つの役割かなと思っています。

それでは、それをどういうふうに結びつけていったらいいのかなということを考えていたのですが、今、樽見さんが評価という話をされましたけれども、それはここの協議会の一つの役目だと思います。

特に、4施設の連携ということを見ると、私が2000年に市民促進検討委員会の公募委員になったときは、ちょうどエルプラザの建設が始まるころでして、そのときも当然そういう話が出てきまして、説明会において、なぜ4施設なのかといたら、4施設があることによっていろいろメリットが出てくるだろうということをも市の方がおっしゃっていたのです。私たちも、そうなればいいなと思っていましたが、実際に運営してみると、どうもそこら辺がうまく回っていないのです。なぜ回らないのかということをもう少し考えてみるべきだと思います。回らないのであれば、どういうふうにしたら回っていくのかというところまで提案できるといいのかなと思っています。

瀧谷委員 他の施設にもこのような協議会はあるのですか。

事務局 男女共同参画センターにつきましては、事業運営を検討する会議がございますけれども、他には、センターのそれぞれの施設の事業運営について協議をする会議体は特にありません。環境プラザにつきましては、環境プラザのあり方について検討する会を持っています。

瀧谷委員 できれば、フォーマルな会にするのか、または、ここの任意の方でもいいから、この中でやるのか別の時間にやるのかわからないけれども、やはり意見交換ができる場は欲しいですね。

樽見コーディネーター ちょっと中断しまして、今、太田こずえさんがいらっしやいましたので、自己紹介をお願いします。

太田委員 このたび、委員をやらせていただくことになりました「飛んでけ！車いす」の会の太田と申します。

私は、今は北大教育学部の博士課程の1年なのですけれども、大学のと時から「飛んでけ！車いす」の会の活動にかかわっていて、今年で6年目になります。

私はまだ学生なのですけれども、「飛んでけ！車いす」の会では学生が運営にかかわるおもしろ味を大事にしていまして、去年から理事をやらせてもらっています。

今回は、前に樽見先生とお話しする機会がありまして、こういう協議会があるというお話をお聞きして、私はまだ若いというか未熟な部分があるのでそんなことは無理かなと思ったのですが、かえって思ったことを言えるのではないかと思ひまして務めさせていただくことになりました。

今後ともよろしくお願ひいたします。

樽見コーディネーター よろしくお願ひします。

それでは、話を戻したいと思ひます。

先ほど自分で言っておきながら、それでは評価をどうしたらいいのかということはものすごく難しいです。そして、瀧谷委員がおっしゃいましたが、このフォーマルな会を2カ月に1回やったところで、その評価までは行き着かないし、材料がないですね。

それをどういうふうにするかということについて、何かご意見はありますでしょうか。

事務局 実は、我々もそういう課題認識を持っております。今回、市民活動に登録している公開団体に対して、センターの利用に関するアンケートを実施したいと思ひています。あるいは、通常、センターの利用に関するアンケートもとっていますので、そういうものを題材として提供することはできるかなと思ひます。

樽見コーディネーター アンケートは、もうでき上がっているのですか。

事務局 今、まさに調査票を作成中ですので、逆に皆さんのご意見を伺って、そういうものをフィードバックしながらやっていければと思ひます。

古起委員 センターだけではなくて、最後の項目でいいですから、4団体をひっくめた総合的な利用度合いというところが欲しいですね。

樽見コーディネーター ここに千何百団体が参加しているということは、ほとんどが4団体の別な部分にオーバーラップしているのだと思ひます。

今日は、評価だけの話に限らず、皆さんの思いを若干整理して終わりにしたいと思ひます。

奥木委員 今まで、次回とか来年度の話が多いと思ひのですが、10年後とか20年後とか30年後にどうしたらいいかというふうに考えていくと、少し視野が広がるかなと思ひます。

樽見コーディネーター そういう話は大好きです。

実は、ここができたからといって、刹那的に来年、再来年はどうしようかと考えるだけではなくて、この建物は未来永劫にわたって残るわけですから、そこで何らかのものを生み出すのもこの会ではないかということですね。

今のご意見に関して、いかがですか。

加納委員 私はそれに賛成です。

行政が私たちにここで議論してほしいことと私たちが議論したいことは必ずしもイコールとは限らないと思います。研修を初め、行政が議論してほしいことがこれからも幾つが出てくるとは思いますが、それはそれでやるとして、私たちが議論したいことの意識合わせが最初のうちにできていれば きっと、そういうことは、行政にとっては耳の痛い話であったり越権行為の話であったりするわけです。この4施設をどう融合させるかみたいな話は一番触れてほしくない話なのです。でも、利用者とか市民の立場である私たちからすると、そこが目について仕方ないので、そういうことも一緒に議論しましょうということが最初のうちに確認されて、それこそ未来に向けていろいろな議論をすることもOKなのだというスタンスでやっていければいいかなと思います。

樽見先生がおっしゃったように、公設公営であるところに私たち市民が参画しているということは、とても意味の大きいことだと思います。それは、この代の委員だけでどうのこうのということではなくて、第3期、第4期と市民委員の形で引き継がれていくでしょうから、その流れも作りたいですね。それが一つの評価だということもあるでしょうし、私たちは市民ニーズを吸い上げる営業マンであるのかもしれない。

樽見コーディネーター もう一步踏み込んで、公設公営ではあるけれども、この協議会としては運営のこの部分は民間に委託した方がいいのではないかという提案もありだと思うのです。

加納委員 それは、私たちが議論したいことの中に入ってくるのだと思います。行政からは出てこないかもしれないけれども、公設民営でいいではないかという議論もこの後のテーマとしてあると思います。

瀧谷委員 先ほど伊藤委員もおっしゃいましたが、私の職業柄、幾らここにコストがかかっていて、それに対して市民はどれだけのサービスを受けているのかということも公開してもらって、1年間、これにはこれだけのコストがかかっているのですよ、皆さんはそれで満足できるのですかというような、数値的な意味での評価も必要なのかなと思っています。

加藤委員 今、奥木委員の10年先という話を聞いて、ここができたばかりの初々しいときに、自分の中でもどかしさがあったことを思い出しました。

それは何かというと、市民活動サポートセンターは何が特徴なのか、ここの魅力は何なのか、それをどうデザインしているのだろうかということが見えなかったのです。市民が運営していくのであれば、市民がいろいろな夢を語るのだけれども、公設公営である以上は、札幌市はここでどのようなランドデザインを持っているのかということがわからなかったのです。

できた以上は、そこに集まってきて、使っている人たちのニーズを把握することが必要なけれども、それを踏まえながら、ここはどんどん新しい団体を生み出していくのだという場所だったりするのかもしれない。いろいろな活動団体のスキルをアップする機

能を持っているとか、全国に誇れるような札幌方式ではないですけども、札幌の市民活動サポートセンターにはこんな特徴があるのだと胸を張って言えるようなものを第2期で議論していくことができたらいいなと思っています。

古起委員 私は、この半年くらい、自分が体験したことなどをメモしてきているのですが、今言われた誇れるものとか札幌ブランドというようなものとはほど遠いのです。

サポートセンターさんは、リンケージにある時代からいろいろ工夫されてきたのを見てきています。それこそ、駐車場の混雑をどうしようとか、いろいろなことをやっていることを知っているのです、それはそれで評価しています。

しかし、消費者プラザのカウンターに行きまして、施設内の会議室の利用を尋ねますと、私たちは会議室の利用の方はわかりません。「事務室に行ってください」と言うのです。責任の主体がどこにあるのかよくわからないのです。

それから、環境プラザのカウンターに行きまして、パネル展示スペースが無料で借りられるということがわかりまして、「何日は空いていますか？」と聞くと、「その日は空いています」と言うのですね。それで、3日後に行きましたら、既に埋まっていたのです。それは、最初に「空いています」と言った時点で既に埋まっていたのです。そんなことで、環境関連の事業者に変な失礼なことをしてしまいました。

このように、挙げると切りがないくらいたくさん出てきます。

今はあえて環境プラザと消費センターのことを言いましたが、それに限ったことではないのです。サポートセンターの前でも来られた方が激怒するケースを数度見ています。それは、どうも施設とか設備などのハードの問題ではないのです。やはり、何か置いてきてしまったものがあるように思います。

瀧谷委員 今お話をされたことは、基本的に平成16年度取組状況という資料に書かれているのでしょうか。

例えば、市民活動への支援の環境整備のところにも、どういう意図なのかわかりませんが、4施設の連携が図るようなことが書かれている気がします。第1期目でもいろいろな提案をされてきていると思うので、逆に今度は、それが本当に実行できるのか、本当にやっているのかやっていないのかということの一つずつつぶしていくことも大切だと思います。提案だけで終わってしまわないで、それが絵にかいた餅ではなくて、一つ一つ実行できているのですねというふうにつぶしていく役割もあるのではないかと思います。議論をして、プランだけ書いて終わりということだけにはなりたくないと思います。

事務局 細かい話をしますと、今まで出ているご意見については、確かに私どもの方にも耳に入ってまいります。当然のことながら、私どもも市民として見た場合にどうなのかということを感じています。

そこでまず、4施設の連携ということがあります。どこが連携するのかと言われそうですけれども、定期的な係長レベルの会議とか、必要に応じて課長レベルの会議もあります。ただ、それは、見方によっては行政内部の見方になってまいります。

それで、この事業運営協議会をどうかかわらせるかということについては、ほかの施設のことをどこまで言えるのかという問題もありますけれども、一つ考えられるのは、ここで他施設の話や問題提起がありましたら、私どもを通して他の施設に問題提起や改善策をお伝えすることも可能なのかなと思っております。

いずれにしても、行政職員だと見えない部分が結構あるものですから、そういう方策も活用できるかなという気がしています。

いずれにしても、義務的に何々をしるとは言いづらいのですが、少なくとも、皆さんがここで感じたことは私どもとして伝えていきたいと思っています。確かに、市民サービスというふうに考えた場合に、この4施設だけではなくて、どこにおいてもサービスアップということが言われていますので、それを気にとめながら対応させていただきたいというふうに考えております。

樽見コーディネーター ほかの3施設の方に、ゲストとしてたまに参加してもらおうということは実現しませんか。ヒアリングですね。

事務局 それは、やり方の問題なのかなという気がしますので、こちらの方で相談しながら、今おっしゃったように、こういうことを感じているのだよということは、フィルターを通すよりも、直接言った方がいいかもしれません。

樽見コーディネーター それもあるし、向こうには向こうの論理があって、僕らは勝手に何だかんだ言っても、そうではないのだということがあるかもしれません。古起委員がいろいろお話しになったことも、向こうの論理に照らせば、実は古起委員のお知り合いの方が誤解して言っているかもしれません。そういうことをすり合わせていくことで、向こうも一緒にやっっていこうかなという機運が盛り上がると思うのです。何か議論のプラットフォームがないような気がします。

古起委員 サポートセンターはエルプラザ全体のコーディネーター役だと思うのです。参画センターはインフォメーションです。インフォメーション機能としてはちょっと情けないところがありますけれども、そういう役どころにならざるを得ないと思うのです。まして、1,200を超える団体ですから、人数にしたら物すごいですよ。そのほかの一般利用の分も考えるとね。だからこそ、仕組みを作って、ここに残していくことが、札幌市のためでもあり、北海道のへそとしての大変大きな役割を担うのではないかと思うのです。ハードルは高いけれども、高いからこそ挑戦する、その辺の応援をするのが我々市民であるということです。

ですから、市の方が当事者になられて溝をつくるのではなくて、言いやすい立場の者が言った方がいいような気がします。

九州などは、言い始めたら止まらないですね。

長江委員 九州は、物事をはっきり言われる方が多いです。僕も、最初に行ったときにはびっくりしました。怒っているのではないかと思ったこともあったくらいです。

どういう表現をしたらいいのか難しいのですけれども、ダイレクトに届くといいですか、



それは嫌味などではなくて、素直に私はこう思います、それに対して素直に答えていただくというのがうまくいくところなのかな、そこから何か生まれるものがあるのではないかと思います。遠慮をするのではなくて、せっかくこのようにいろいろな人が集まっていますし、他の施設で働いている人もいますし、ボランティアの方もいますので、そういう方々と意見交換ができればいいなと思っています。私たちはこう思っている、こういう感想を素直に持ちましたというところで意見交換ができれば、そこから発展できるのではないかと思います。

樽見コーディネーター 事務局から私の方に、最初の方は会議を密に毎月1回くらいやれないかという提案をいただいています。そうすると、次の会議が考えられているのは10月の後半あたりですが、先ほどアンケートの話が出ましたね。

例えば、10月の次の会議で、アンケートの中身のひな型が出てきて、それについて議論することはできますか。

事務局 委託の期間がありまして、もう発送しようと思っていたのです。ですから、次回までに結果が出ればなという形です。今回のアンケートを完全に分析し切るというよりは、皆さんが検討されるための土台として整理していただければと思います。

樽見コーディネーター せっかくだから、僕らの聞きたいことも盛り込みたいですね。

古起委員 今、びしゃっと戸を閉められた感じがしました。中身は完成しているのですね。

樽見コーディネーター せっかくですから、そのアンケートを使わない手はないのですけれども、我々が知りたいことを十分に満たしているかどうかということにはわかりませんね。

古起委員 この協議会に生かすためのアンケートではないのでしょうか。

事務局 新まちづくり計画の事業もありますので、そういうものにも生かしていくアンケートです。

加藤委員 それは、登録団体に発送するのですか。

事務局 そうです。

加藤委員 それはそれとして、ここを日常的に頻度高く使っている人たちにも話を聞きたいですし、事務ブースの方とか、ここに来ている回数が多いほどいろいろなものが見えていますから、そういうリサーチも必要なような気がします。

樽見コーディネーター 2年間の任期があるとはいえ、あまり時間がないような気がするのですが、次々と進めていかなければならないと思います。

一番最初に申し上げたように、運営協議会に与えられた役割は二つあります。一つは、この協議会で議題を洗い出して、それに対して自発的に議論していくということがあって、今はその話の頭出しがなされているような気がします。そしてもう一つ、義務を課された議題があると思います。運営協議会という名前からして、運営にかかわることで一つ一つ決めていかなければいけないことがあって、その両方をやっていかなければいけないと思

うのです。それは宿命だと思うので、夢を語るのと同時に、目の前にある課題を処理していくという両方をやっていかなければいけないと思います。

早速、今日宿題を与えられたマストの部分ですけれども、このセンターが運営する研修、講座をどういうふうにしていけばいいかということについて、今日具体的な話を出し合ってもしょうがないので、それは次回までの宿題として、皆さんにこういう案があるということを持ち寄っていただくことでいいでしょうか。

ただ、研修の考え方をどういうふうにしようかというところを話し合っていかなければいけないと思います。

これはどういうふうに考えればいいでしょうか。

今までの研修というのは、センターの事業運営の中ではどういう位置づけなのですか。

事務局 実は、市民活動サポートセンターというくらいですから、市民活動を視野にとすることがあります。ただ、正直なところ、市民活動というものを前面に出し過ぎますと、これまた難しい面がありまして、研修講座にアレルギーを持つということもあたりいたします。ただ、当然のことながら、これから市民活動を行おうとする方々も結構おりますので、そういう方々をいかに掘り起こすか、引っ張り出すか、そういう面も考えていかなければならないと思っています。

実は、今ここに載っている研修・学習は、ちょうど第1期の事業運営協議会の委員さんから提案していただいた部分と、市民活動団体の方からお金の面の要望も上位にあるということで、私どもが6月からサポートローンを導入するということもありまして実施したものと、これから予定しているものの4つがございます。

豊かな老後のための友達づくり実践講座というのは、サポートセンターの事業ではあるのですが、それを前面に出し過ぎると難しい面がありますので、こちらはそういう面で構成いたしました。

あるいは、子育て中のネットワークづくり支援講座も、そういう方々を掘り起こすという意味合いがあります。

一方、加納さんに研修の講師になっていただいたNPO運営の収入確保術入門というのは、まさしくNPOと書いていますので、市民活動の方たちに対応しております。

それから、情報発信スキルアップ講座ですが、市民活動をやっている方々というのは、いろいろな面で自分をPRするのが難しいということがありますので、これも市民活動団体の方々を対象としております。

このあたりは、掘り起こしの部分と、今、市民活動をやっている方々をサポートするという両方の意味合いでの研修・学習機能を考えております。条例規則の中でも、市民活動を行っている者、あるいは行おうとする者という規定もありますので、その両面からの研修というものを考えております。

樽見コーディネーター 加藤委員もこういう企画をされているんですね。

加藤委員 情報発信スキルアップについては提案をしております。それから、昨年度は

実際にコーディネートという形でかかわりました。

私自身は、ちえりあでやっている講座の中のNPO、市民活動分野のコーディネーターをしておりまして、年に2回ほど講座をやっています。ですから、常々、サポートセンターとちえりあとの関係を意識するのですが、すみ分けというのは違うと思いますし、せっかくやるのだったら連携くらいはしてほしいし、むだなことはしたくないと思って、ちえりあの方のスタッフの方に、サポートセンターに行きたくてきちんと宣伝してきてという話をしたりしております。

樽見コーディネーター ちえりあとのすみ分けというのは、市の方ではどういうふう考えているのですか。

事務局 中には、同じような講座が見受けられなくもないのです。それは、私も意識しております、ちえりあは教育委員会になりますが、ボランティア研修センター等とも密にしていきたいと思っております。ただ、機会がないというところはあるのですが、おっしゃるとおり、連携は本当に必要だと思っておりますし、これから事業運営協議会も新しくスタートしますので、気持ちとしては連携していきながら情報交換をしていきたいと考えております。

細かい話をすると、本州から誰かを呼ぶにしても、単発で呼べば経費が3倍かかるけれども、連携すれば一本で済むという面も出てまいりますので、連携は必要だと思っております。

もちろん、先ほど古起委員がおっしゃった道立のサポートセンターとも情報交換を密にしまして、連携をもっと深めていきたいと思っております。

連携連携と役所的に言ってしましますが、気持ちとしてはそういう方向で考えていきたいと思っております。

樽見コーディネーター 僕は逆の意見を持っております、ときに連携しないことを決断することがあってもいいのではないかと、競争するのも大事なかなと思うのです。

実は、道立サポートセンターができたときに、ふだんよくお会いしている民設民営のサポートセンターの方から、あんなものができてサービスの重複になるだけで、むだだという議論をいっぱい耳にして、僕自身、半ばそう思ったのですが、市民の側に立ってみれば、民設民営もあれば、道設道営みたいなものもあるので、そこに競争が生まれて、お互いにサービスを磨き合うというか競い合うというのは、場合によってはいいかなと僕は思ったのです。

そういう意味では、あまり連携し合うことばかり念頭に置くと、さらにちえりあとここが二つある理由がなくなってしまうのではないのでしょうか。互いを横目にみながらサービスを磨き合うというのも必要なのではないのでしょうか。

加納委員 私は、ちえりあでもやっているのですが、ここで主催したものとちえりあで主催したものでテーマが同じだったので、同じ話をしました。市民活動に興味があるのだけれども、まだ具体的にやっていないような人を対象に、どんと背中を押してあげるよう

な講座というテーマ設定をいただきました。

ただ、市民から見たら、どこでやっているとか、だれが主催しているということはどうでもいいのではないかなと思うのです。自分が受けたいものが受けたいときにあればいいと思うのです。提供する側の連携が必要なのは、それが同じ日に重なるとか、あまりにも近い日に設定されていて1年のうちにそういうものが全くない時期があるとか、そういうことはなくしましょうくらいの話で、いろいろな選択肢があるということは非常に大切だと思います。あまり連携し過ぎてしまって、これは道立市民活動促進センターでやるからいいね、これはちえりあでやるからいいねというふうに殺ぎ落とし過ぎると機会が減ってしまうのではないかなという思いがあります。

ですから、本当に必要なものが何かということちゃんと議論されていて、その両者の供給体制に整合がとれていればいいと思うのです。

それは、道も同じだと思います。そういう意味での道との連携は要ると思いますが、競争の原理が大切なので、うちは20人集まったけれども、そっちは10人しか集まらなかったのかという意味の競争意識は持ってもらいたいですね。

樽見コーディネーター 私はあまり市民活動にフォーカスし過ぎない方がいいと思うのですが、その辺はどうですか。

加納委員 そこは両方要ると思っています。特に最近強く感じているのは、NPO法人がどんどん増えている中で、法人数は増えているのに、あそこのNPOは事業型ですごいな、最近新しいニューウェーブが出てきたなと思うような団体は僕の目には余り届いていません。これは、一つ大きな課題だと思います。法人申請を出せばまあまあ通るけれども、NPOセクターとして自立できない団体が非常に多いのです。その底上げはものすごく重要で、雇用の創出とかいろいろな側面を持っているので、事業運営がきちりできるNPOをしっかりインキュベートしていくということがこういうセンターには非常に求められているのではないかなと思います。

NPOが自主主催でいろいろな講座をやっていますが、単に一個人としての興味とか知識を増やしてあげるということは、そういう情報が広まればいいだけだけれども、もっと戦略的、組織的にそういうNPOをより強くするためのカリキュラムを組んで、ちゃんとNPOに説明をしに行くと。こういう趣旨でやるのですよとか、おたくはこういうものを受けたらもっと伸びますよとか、そこまで戦略的にやって、札幌市に強いNPOをもっと作らなければだめなのです。こういう言い方はしたくないのですが、弱いものばかりであだこうだと言ってもだめで、やはり時代を変えていくときには強い力は必要なのです。

最近、私はそれを強く思っています。強いNPOをどうやって作るかです。

加藤委員 そういう意味では、ここに事務ブースを持っている人たちは、目の前に研修のお客さんとしているわけだし、そこを大きく育てることはここの成果にもなるわけですから、ここのニーズもきちり把握する必要がありますね。

古起委員 もう一つ考えざるを得ないのは、札幌市システムというか、区と地区センタ

ーと、地区センターの中に福まちセンターと、連絡所をまちづくりセンターと名を変えましたが、その路線を走らざるを得ないということがあるわけです。

そうすると、先ほどの入門編の豊かな老後のための友だちづくりというのは、結局、企業を退職してきて、地域に戻ったはいいいけれども、ご近所になかなかうまく溶け込めなくて、私はそういうつながりを考えてしまうのです。ですから、区の中の新しい仕組みで、コミュニティをどうつくっていくのか、コミュニティにどう参加させるのかという部分も研修・学習という中に盛り込んでいかざるを得ないと思うのです。

ただ、一方では、加納委員が言われたように、間違いなくそういうところに育て上げていくという支援も必要です。

加納委員　すそ野を広げるためには、すそ野を広げる仕組みとか枠組みがあって、まちづくり支援センターのようなところでやる研修事業というのは、地域の人に、市民活動というのはこんなに気軽なものなんだよ、目の前にはいっぱいやるものがあるね、実際に自分の町内会のAさん、Bさんがこんなに生き生きとしているでしょうということをいっぴいやって、ヘッドオフィスみたいなところでは違うジャンルのものをやるとか、そういう戦略性みたないものがあるといいかなと思います。

瀧谷委員　サービスの提供なのか、施設の有効利用なのかということは分けて考える必要があると思います。ここがあるから、プログラムの一つとしてセミナーがあるということではなくて、教育というサービスを提供するのであれば、場所はどこだっていいわけですし、出張してやったっていいわけですから、それを分けて考える必要があると思います。研修とこの有効利用は別に考えて、学校に行ってもいいわけだし、子供たちのところに行くと紙芝居をやったっていいわけだし、そういうプログラムを予算的なものとしてやるのかというふうに分けなければいけないと思います。

事務局　市民活動サポートセンターは1,200くらいと言いましたが、よくよく見ると、NPO法人を取得している市民活動団体もいますし、サークル的な、ボランティアグループ的な団体もいます。ただ、今後、市民活動に羽ばたいていくということにも期待して登録しています。

実は、地域でいろいろ活動している人もいらっしゃいまして、平岡に住んでいるある方が、そちらから来てここで活動しているのだけれども、地域との接点がなかったと。それでは、平岡まちづくりセンターがあるから、そっちの方とかかわってはどうかというお話をしたら、目を生き生きとさせていたということがあります。ですから、ここでやっていることが地域に波及していくということもあるのかなと思います。

それから、先ほど私は連携連携と言いましたが、私の言い方が悪くて、逆にサポートセンターの良さをなくすことになりかねない言い方だったかもしれません。ただ、良さを出しながらも、一方では、現実に札幌市全体の予算は厳しくて、今回、260億くらいの経費節減ということも出されましたが、そういう意味での効率性を求める意味での連携が必要かなという気がしております。

ただ、当然のことながら、こちらの方も良さを失わないような形で企画を考えさせていただければなというふうに考えております。

加藤委員 ちょっと意地悪な質問かもしれませんが、事務局がおっしゃる良さというのは、具体的にはどんなことなのでしょう。

それは、ここのセンターならではのメリットとか武器とか利点だと思いますけれども、一つには、目の前に活動している人が常時いるということもあると思います。

事務局 なかなか鋭い質問ですけれども、サポートセンターには1,200団体が集まっているのですけれども、横の連携が少ないのかなという気がしています。ですから、良さということを考えると、横の連携をつなげて、さらに全体的な力を増すということが考えられるのかなと思います。それは、180万都市のここにしかない施設の大きな特徴になるのかなという感じがします。

加納委員 ちえりあというのは生涯学習センターですから、学習するところなのです。市民活動サポートセンターは、より実践への入り口としての研修や学習をする場だと思うのです。そこが違いであり、こちら側の良さというのは実践につながる場であるということなのかなと私はイメージしています。

古起委員 私は、あきらめたい気持ちとあきらめたくない気持ちがあるのです。教育委員会でしょう、札幌市でしょう、社協でしょう、みんなそれぞれ事業と予算を持って、なぜ譲らなければいけないのか。市民にしてみれば、すべてかかわる必要なことなのです。ですから、市民とか生活者とか活動者を中心に据えて物事を考えていかないと、全体がおかしくなります。一方、もう枠にはまって、仰せのとおり、見事なプログラムを提供いたしましょうということではんちゃんもいいとは思いますが。

瀧谷委員 研修をやるNPOみたいなものが複数あって、社協とかいろいろなところから予算をもらって、いろいろな場所で活動できるようなNPOがあって、そういう複数の研修型NPOが競争し合ったり知恵を出し合ったりして、たまたまこの場所とここの予算でやるという形が理想ですね。

樽見コーディネーター 先ほど加藤委員は意地悪な質問とおっしゃったけれども、僕は、ここの良さというのは、北海学園大学と一緒に、便利がいいということだと思うのです。うちの大学は、ほかに何があるかと言われても難しいのですけれども、便利ですし、真下に地下鉄があります。ここは、真ん前にJRの札幌駅があるということです。しかし、JRの札幌駅が真ん前にある割には賑わいが無いというのが僕のイメージです。

それは、たわいのないことで、あそこにある喫茶店の居心地の問題とかね。用事もないのにあそこに行って、コーヒーを飲んで、そのコーヒーが他で飲むよりは150円安くて、座り心地がいい椅子があって、わいわいがやがややっているうちに何かいいアイデアがぽこっと生まれて、気がつけばインキュベーションセンターもある、ノウハウは講座が教えてくれているというように、振り向けばそこにセンターがあるみたいな感じですね。私は、センターありきというのは、どうも今の時代にそぐわないような気がします。活動という

のは、もっと自発的だし、突発的なもののような気がするのです。周りを全部固めて、いい建物を建てました、いい講座をそろえました、いい拠点を作りましたといったところで、アイデアとか、あっと驚くようなもの、英語で言う「ワオ」というものがないと、核がおもしろくないと、どんなにマネジメント能力とか資金調達能力をつけていってもだめなのではないかという気がします。

それから、加納委員がおっしゃるとおり、市民活動のいろいろなノウハウを直接的に支援するような講座も必要だけれども、とりあえず、駅前でおもしろいことがいつも行われているというもう半分の方ですね。にぎわいの部分も講座が演出してくれるといいなと思います。とんでもない講座をあそこでやっているよというものも必要なのではないかと思います。

古起委員 瀧谷委員が言われたように、研修とか講習を商いにしているNPOなり活動団体がいっぱいあるはずですが、ただ、どれが受け入れられるかということは当然選択されなければいけません。でも、育てるという意味では、彼らがデビューする場なり鍛練される場がなければどうにもなりません。例えば、札幌駅北口大学のようなものがエルプラザの中に常設されていて、夕方のあの時間には必ず何かやっている、その1カ月のプログラムは出ている、それでは私は何曜日のやつに行こうと。そういうことが積み上がってくると、そういう場が連続的に生きるだろうと思うのです。お昼を食べるにしても、なぜ1階のエスカレーターわきがあんなに人気スポットになっているのか、喫茶店の場所はあそこがベターなのではないかとかね。

樽見コーディネーター そういうことを協議しようとする、実はここは一つの施設ではないので横のつながりが必要だというように、非常に自浄自縛のところがあるのです。そこを打ち破って、運営協議会が新しいルールとか新しいノウハウとか新しいシステムをつくれたらいいかなという気がします。

古起委員 協議会の今回の目的があります。運営規定もあります。それはそれでこなさなければいけないと思うのです。ただ、一方では、この施設なりこの仕組みをもっと生かしていくことを考えなければいけない。そして、この枠の中でやること自体に無理がくるわけだし、担当の方々もそれで骨を折ることになるかもしれないので、それであれば、ここから何かが生まれても決しておかしくないと思うのです。まして、千二百数十団体あって、その中にも声をかけたら、そういう活動に対してだったら参加をするということがあれば、その場に4団体が参加してもらってということは考えられますね。

奥木委員 まず、サポートセンターというのは一体どういうところなのかということがまだはっきりしていないのかなと思います。はっきりしていないと、利用者の人たちから、これはここに行ってもいいのかなという意見が出てくるでしょうし、講座の内容についても、他の施設との連携についても、はっきりしてこないと思います。そこら辺について、最後の方で皆さんからいろいろ意見が出てきましたが、やはり、便利な場所にあるので、にぎわいのある場のようなところを少しイメージしてきているのかなと感じました。

太田委員 私は、サポートセンターでサポートされたことがないなと思っています。

それから、道立のサポートセンターがあって、ここにもあって、その特徴とか違いは何かという素朴な疑問はあったのですが、それについては、加納委員や樽見先生がおっしゃったように、いろいろな考え方があって、それはそれでいいのかなというふうに納得できる部分がありました。

自分の団体の話なのですけれども、NGO相談員を外務省から受けたのです。月幾らというお金をもらって、東北以北で相談員という制度をとったところがないので、飛んでだけがNGOの相談を受けることになりました。ただ、提供できるメニューがあるかという、何も無いのです。何も無いところから、何ができるのか、どういうことならサポートをできるのかということをお話しています。

さっき、このサポートセンターの特徴は何かと言われると、箱はあるけれども、あまりメニューがないのではないかというイメージがあります。ですから、特徴というか、マストなところと新しく作っていくところがあると思いますが、ここだけは外せないというところの認識を共通にしたいなという思いがあります。題目的なところを共有したいなという気持ちであります。

樽見コーディネーター ただ、その題目的なことが今日は出切っていないと思います。しかし、もう予定の時間を過ぎておりますので、とりあえず、次回に向けて何をすべきかということを確認しておきたいと思います。

さっきおっしゃった題目的なところは、継続して次回も話をしましょうということですね。それについては、自分はこう考えたというような提案があるのならば、どんどん持ってきていただきたいと思います。これは宿題ではありません。

宿題は、この紙を埋めるということだと思います。

「講座プロジェクト案記入用紙」というものをせっかく事務局に用意していただきましたので、なぜか書くところが二つあるのですが、少なくとも一つは埋めていただいて、できれば二つくらい埋めていただきたいと思います。どういう研修の具体案があるかということをお形にしていかなと、どういう研修が望まれているかということが見えていかないと、思います。

これは、事前に事務局にお渡ししますか。

事務局 今日はこういう形でお示ししましたが、委員の方々には、後ほどメールで送らせていただいて、思いついたものをこちらにどんどん送っていただくような形をとりたいと思います。

樽見コーディネーター これは、フォーマットが作られていますけれども、これに従わなくても、全部これを埋めなくても、こういう具体案に行く手前の考え方とか、研修会に対する自分なりのフローチャートのようなものを描いてもらっても構わないし、あらゆる形で事務局の方にお送りいただきたいと思います。

古起委員 これは、他の登録団体にも回るのですか。あくまでも、ここにいる人たちだ



けにですか。

事務局 協議会委員さんにだけです。

樽見コーディネーター それから、アンケートの内容についても、我々に送っていただけますか。

事務局 研修の用紙とあわせて、皆さんの方に案を送りますので、もし、こういったことも項目としてということがあればご提案ください。

樽見コーディネーター 間に合いますか。

事務局 ぎりぎり間に合わせます。できれば、今月中にまとめたいということがありますので、なるべく早目にご意見をいただければと思います。

瀧谷委員 期限を決めてもらった方がいいと思います。

事務局 来週のできるだけ早い時期にお送りいただいた方が、すぐに調査できますし、次回にそのまとめができると思います。

樽見コーディネーター それでは、皆様から上がってきた意見をこの会の統一の意見にする時間はないですから、最終的なことは事務局にお任せするしかないと思います。ただ、せっかくの機会ですから、一つだけでもいいので、こういう項目があった方がいいということを送っていただいて、それは事務局の方で載せるか載せないかということ判断していただくということによろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

樽見コーディネーター 100%満足の行くアンケートに仕上がらないかもしれないけれども、少なくとも、ここを聞きたいということが網羅される可能性は大きいです。

それから、マストの部分ではなくて、この協議会はどうあるべきかという議論は、今日はちょっと中途半端な議論になってしまいましたが、継続していきたいと思います。それについては、さっき言いましたように、自分なりに勝手に案をつくってきたということでも構わないと思うのです。それを持ち寄って、10月の会議としたいと思います。

[ 次回日程調整 ]

#### 4. 閉 会

樽見コーディネーター それでは、遅くなって申しわけありませんでした。

これで、第1回運営協議会を終了したいと思います。

お疲れさまでした。

以 上